

夏野菜の初期管理

春夏野菜は実を収穫する野菜(果菜類)が多く、肥料が多すぎると葉や茎が繁茂して花が付きにくくなります=実が少なくなります。

前作で施肥量が多かった場合は今回は少なめにしましょう。

(復習)

・苗を買う時の注意

- ① 節間が短い (=間延びしていない)
- ② ポットの中で根が巻いていない
- ③ 花が咲いていない

<植え付け>

植え付けに適した苗の齡

- ・ナス、トマト：最初の花が開花する頃
- ・キュウリ：本葉が1-2枚開いた頃

注) ナスやトマトで花が咲き始める前の若い苗を植えると葉や茎の生長が盛んになり果実の生長がおそろかになる事があります。

<植え付け>

キュウリは植付け前に支柱を立てネットを張ります。

(苗を植えてからネットを貼ろうとすると苗を傷めます。)

晴れた日に行います。

苗の鉢土が乾いている場合は水を与えて30分以上経ってから植えます。

植え付ける深さは、苗の鉢土表面と植え付ける畑の土の表面がほぼ同じ高さか心持ち深植えとします。

植え付けたら水をたっぷりやります。

・接ぎ木苗を植える時の注意点

- ① 元肥の窒素施肥量を標準施肥量の**70-80%**とやや少なめ。
- ② **接ぎ木の接いだ箇所を必ず地面よりも高くする。**

<株間>

ナス：50-60cm、トマト：40-50cm、キュウリ：60-80cm

これよりも間隔が狭いと株が生長したときに風通しが悪くなって病虫害を受けやすくなります。

<支柱>

植え付け後なるべく早く支柱を立て、植えた苗を支柱に誘引します。

立てる位置は、苗の鉢土のすぐ外側。

トマト：最初から、太めの長い支柱を立てます。

※最初低い支柱を立て、途中で大きい支柱を立てようとする
と立てる時に根を傷めます。

太さは15mm径程度が好ましい。

<初期の脇芽摘み>

ナスやトマト：第一花までのわき芽を小さい間に、晴天の日に摘み取ります。

キュウリ：6節前後までのわき芽を小さい間に摘み取り、樹体の生長を促します。

つまり、初期の段階では樹体の成長を優先させたいので、樹体が小さい時に栄養を多く消費する実を、付けないようにすることが大切です。

※脇芽は晴天の午前中に出来れば手で取ります。

【理由】切り口が湿気ていると菌が入り易いので、出来るだけ早く乾燥させるためと、ハサミを使うとハサミに菌が付いていた場合、わざわざ菌を移すことになるからです。

脇芽が大きくなってしまったりしてどうしてもハサミを使う場合は、少なくとも流水で十分水洗するなどして除菌・殺菌し、洗った部分が乾燥してから使ってください

<トマト>

基本 | 本立てにし、脇芽はすべて取ります

<追肥>

植え付け時と植え付け | 週間後くらいに薄い液肥を与えると苗の活着(根つき)が良くなります。

様子を見ながら多くなならないように追肥してください。

(例) 葉の緑色が薄い等

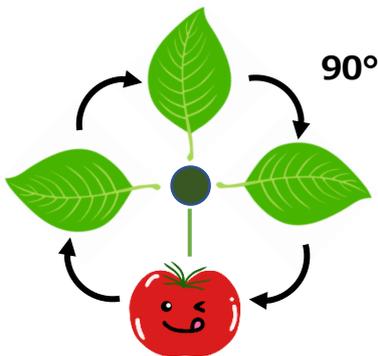
肥料過多になると、

- ・花が少なくなり実も少なくなる。
- ・アブラムシが集まりやすくなる。
- ・病気になりやすくなる。

肥料過多にならないよう十分注意してください。

(ワンポイント)

トマトは上から見て、時計方向90° 毎に花、葉、葉、葉、花と付き、花が付く方向はいつも同じです。よって、植付けの時に花の方向を収穫しやすい位置に向けておくと、全てのトマトが同じ方向に出来るので、収穫し易く、見た目もきれいです。



簡単な施肥量の計り方

堆肥	スコップ1杯	約2kg
苦土石灰	1握り	約40g
化成肥料	1握り	約30g
(その他)	1つまみ	約2g